

# 製品名 ポンエポライムMC

AGCコーテック株式会社

系統	エポキシ樹脂系塗料				
特徴	1. 特殊顔料の不透水性を活かした中塗塗料です。 2. 塗膜が硬く、耐摩耗性に優れています。 3. 耐薬品性、耐水性、耐塩水性に優れています。 4. 上塗塗料のフッ素樹脂塗料並びに下塗塗料のエポキシ樹脂塗料との密着性に優れています。				
用途	橋梁、プラント、タンク等の大型構造物、耐薬品性を必要とする箇所の中塗り 船舶、機械船、コンテナ				
荷姿	16 kgセット (塗料液: 11.2 kg 硬化剤: 4.8 kg) 4 kgセット (塗料液: 2.8 kg 硬化剤: 1.2 kg)				
色相	白、グレー				
組成 適用法令	塗料液 (白色)	樹脂ワニス	60	消防法 危険物区分	第4類第2石油類 (非水溶性) 危険等級 III
		顔料	35		
		溶剤	3		
		添加剤	2		
	計	100	労働安全 衛生法	有機則 第(2種有機溶剤)	
	硬化剤	樹脂ワニス 顔料、添加剤	95 5	消防法 危険物区分	第4類第2石油類 (非水溶性) 危険等級 III
計	100	労働安全 衛生法	有機則 第(2種有機溶剤)		
塗料性状		粘度		比重	加熱残分(%)
塗料液: 白色	塗料液	—		1.30	69.0
	硬化剤	—		0.93	43.0
	混合液	—		1.16	61.0
※ 塗料性状に記載している数値は代表値を示すものであり、若干の変動があります。					
取扱上の注意	別紙及びSDSを参照してください。				
塗装条件	雰囲気	温度5°C以上、湿度85%RH未満			
	混合比	塗料液 : 硬化剤 = 7 : 3			
	希釈剤	ボンエポライムMCシンナー			
	塗装方法	刷毛、ローラー、エアレスプレー			
	エアレスプレー	一次圧: 0.2~0.3 Mpa	二次圧: 12~15 Mpa		
	塗装条件	チップNo. 163-515等			
標準所要量 希釈率 白色	塗装方法	所要量(kg/m <sup>2</sup> )			希釈率
		理論	塗着効率	標準	
	刷毛・ローラー スプレー	0.15	80% ~ 100%	0.15 ~ 0.18	0% ~ 10%
			60% ~ 80%	0.18 ~ 0.24	0% ~ 10%
※ 上記標準所要量は、標準的な所要量であり、被塗物の形状・素地状態及び塗装方法により、差が生じます。					
標準膜厚 白色	希釈率	標準膜厚(μm)			
		乾燥膜厚	WET膜厚		
	0%	60	126		
	10%		144		
ポットライフ 乾燥時間 塗装間隔		23°C			
	ポットライフ	8時間			
	指触乾燥	1時間			
	半硬化乾燥	8時間			
	硬化乾燥	—			
	塗装間隔	16時間以上10日以内			
※ ポットライフと乾燥時間は目安です。無希釈、一定の温度条件の恒温槽にて測定したものです。					
※ 乾燥時間の測定方法は、JIS K 5600-1-1 4.3.5によります。					
※ 本書類の内容は、予告なく変更する場合があります。					

制定: 2002年1月1日

改定: 2022年1月1日

# 取扱い上の注意事項

## 1. 取扱い方法及び保管

- ・主剤と硬化剤、及びシンナーは既定の割合で混合し、十分に攪拌してからご使用ください。
- ・被塗面の油脂、塵埃、水分などの付着物は除去してください。
- ・硬化剤は水分と反応しやすいため、開封後は出来るだけ早くご使用ください。
- ・火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・取扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
- ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸込まないようにして下さい。
- ・取扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスク又は送気マスクを付け、更に頭巾、保護めがね、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋等を着用して下さい。
- ・容器からこぼれた場合には、ウエスで拭きとって、水をはった容器に保管して下さい。
- ・塗料あるいは溶剤等の付着したウエスや塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまでは、必ず水に漬けておいて下さい。
- ・取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- ・缶上部の取っ手は手下げ専用です。ロープやフック等を取っ手に取り付けてつり下げないで下さい。
- ・貯蔵中は容器を密閉し、直射日光や雨のあたらない、換気の良い一定の場所を定めて保管して下さい。
- ・部外者の出入りできないところで、かつ子供の手の届かないところに保管して下さい。

## 2. 救急処置

- ・皮膚や着衣に付着した場合は、水やせっけんで十分に洗い落とし、皮膚に痛みや外観の変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。
- ・目に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- ・誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けて下さい。

## 3. 火災時の処置

- ・万一、火災が発生した場合には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いて下さい。

## 4. 廃棄

- ・廃材、材料の付着したウエス等は安全な方法で保管し、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ・容器は中身を使い切ってから、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

## 5. 誤使用

- ・本来の用途以外(シンナー遊び、汚れ落とし等)に使用しないで下さい。
- ・指定された以外の材料と混合しないで下さい。

## 6. 詳細情報

- ・詳細な情報が必要な時は、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

## 7. 低温時に塗装する際の注意事項

想定される状態		発生する不具合		対策、注意点
下塗が未硬化の場合		<ul style="list-style-type: none"> <li>・下塗り成分が移行(ブリード)</li> <li>・ちぢみ(旧塗膜がある場合)</li> <li>・上塗り塗膜との融合</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・下塗り塗膜が硬化状態にあることを確認する。</li> <li>・下塗り塗膜に外観異常がないか確認する。</li> </ul>
硬化速度の低下		<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装後の結露や降雨による影響を受ける時間が長くなってしまう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。</li> </ul>
水分の混入	塗装前	結露	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗膜の膨れ、発泡、軟化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装前に被塗面の状態を確認する。</li> </ul>
	塗装後	結露 降雨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗膜の膨れ、発泡、雨跡の形成、艶の低下、白化など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。</li> </ul>